

# 福井の幕末明治 歴史秘話

## <第14号>

平成28年7月29日発行

### 日本初のアスファルト舗装に挑んだ由利公正～失敗してもへこたれない固い信念～

今回は、由利公正が、東京府知事を退いた後に取り組んだ様々な殖産興業の中から、アスファルト（土瀝青）事業を取り上げます。

由利は、明治5年（1872年）5月から翌6年（1873年）2月まで、岩倉海外使節団に同行し、欧米の政治や文化、産業に直に触れる機会を持ちました。帰国後、その見聞をもとに、福井での絹織物改良や東京都板橋区での乳牛飼育、群馬県での中小坂鉄山開発など殖産興業に積極的に取り組んでいます。それら事業の一つに、アスファルト事業があります。



由利公正

（岩倉使節団に同行した頃）

明治10年（1877年）頃、秋田県勧業課長から国内産（秋田産）のアスファルトの利用方法について相談を受けた際には、「パリにおいて実見した天然アスファルトであり、各国でも重要視しているもの。この土塊は良品なり大いに利用に励むべし」と述べたと言います。欧米視察の際に、すでにアスファルト事業に着目していたことが窺われます。

その後、明治10年（1877年）8月、東京上野で開催された「第一回万国勧業博覧会」の会場（園芸館）で、日本で初めてのアスファルト舗装に挑戦します。しかし、突貫工事と作業員の不慣れが原因で、火災を起こし、中断を余儀なくされました。

しかし、由利はあきらめません。翌年の明治11年（1878年）、東京の神田川にかかる鉄製の昌平橋（旧昌平橋。現在の昌平橋とは異なる）でアスファルト舗装工事に再挑戦し、ついに日本で初めて成功します。昌平橋は、由利自らが指揮を取って架橋し、舗装に使用したアスファルトは秋田県豊川村のもの200俵が用いられたと言われています。天然アスファルトの活用を相談した秋田県民の思いを汲み、ここでも由利のかねてからの主張「民富めば国富む」を実践したのです。

日本初のアスファルト舗装がどこかについては、長崎市「グラバー園」内の道路と昌平橋との間で論争が繰り返されてきました。しかし、舗装専門家向けの書籍「新編 語り継ぐ舗装技術」（鹿島出版会（2011年1月出版））は、「同園の舗装道路はアスファルトではなく、コールドールを用いて」おり、日本初は昌平橋であると指摘しています。こうして、由利の名は昌平橋とともに歴史に記録されているのです。

自分の信念や信条をあくまで貫き幕末明治期に多くの功績を残した由利公正。「庶民のために」という思い、そして“先進的なものに挑戦し続ける”姿勢は、殖産興業の足跡でも窺い知ることができます。

#### ～幕末ふくい歴史紀行～ [旧昌平橋]

・日本初のアスファルト舗装がなされた鉄橋として知られる旧昌平橋。工費をまかなう通行料として文久銭1枚（1厘5毛）を徴収したことから「文久橋」とも呼ばれました。この橋は、その後、東京府へ譲渡され、現在の昌平橋は、昭和3年（1928年）にその上流に架けられました。その2年後、旧昌平橋の場所に万世橋が造られています。  
住所：東京都千代田区外神田1丁目（JR秋葉原駅電気街口から徒歩3分）



現在の万世橋  
（かつて旧昌平橋があった場所）

★お知らせ 明治維新期の偉人をめぐるアンテナショップスタンプラリーを開催中です！

- ・7月23日（土）～8月31日（水）に、東京日本橋・銀座の6県のアンテナショップで開催。
- ・明治期の基盤を作った偉人ゆかりの県（福井県・山口県・高知県・長崎県・熊本県・鹿児島県）が連携して実施。6店舗のスタンプを集め、偉人クイズに正解した方に抽選でプレゼントを進呈します。ぜひ、ご参加ください！